

学校長着任の辞

令和6年4月1日付で、第12代防衛医科大学校長を拝命致しました、福島功二です。

わが国の平和と独立を守り、世界の平和に貢献するという、崇高な使命を背負った自衛隊において、本校は、医師たる幹部自衛官並びに保健師・看護師たる幹部自衛官、技官を育成するという重要な任務と共に、最先端の医療及び医学研究を実践し、その成果を自衛隊衛生全体の発展に直接寄与させることができる唯一の大学校です。防衛医科大学校長を拝命し、その責務の重大さに改めて身の引きしめる思いがしておりますとともに、誠心誠意、任務に邁進していきたいと考えております。

この機会に、学生諸君並びに教職員の皆様に対し、私の所信の一端を述べたいと思います。

本校は、これまで多くの卒業生を送り出してきました。そして、その各々が、自衛隊病院や医務室などの医療現場をはじめ、自衛隊の部隊や司令部等において、平素の任務に加え、国際平和協力活動や大規模災害現場での衛生支援等で活躍しています。

令和の世に入り猛威を振るった新型コロナウイルス感染症への対応においても、医官や看護官がその能力を如何なく発揮し、国民の平和と安全を守る最後の砦として、多くの国民から高い評価を受けています。

これらの医官・看護官を育成する役割に加え、防衛医科大学校は、安全で質の高い先進医療を提供する地域の中核病院として防衛医科大学校病院を運営し、地域の皆様からも高い評価を得ているものと承知をしております。

これもひとえに、初代松林学校長から第11代四ノ宮学校長に至る、歴代学校長の一貫した教育方針と、職員の不断の努力の賜物と思います。

この伝統を守り、さらに輝かしい未来への発展に向け、私達が今後一致団結し

て取り組むべきこととして、以下の四つを目標として掲げたいと思います

一つ目は、防衛医科大学校として誇りと自覚を育む教育の実践です。

学生諸君が本校でいかに学び、成長し、巣立っていくかということは、本校の重要な任務の中核をなすものです。学生諸君は、一人一人が防衛医科大学校の学生であることの誇りと、将来自衛隊衛生や医療の現場でリーダーとなることの自覚を持ち、高い目標を掲げ、自ら進んで学んでください。そして、医療者として、社会人としてはもとより、幹部自衛官として、防衛医科大学校病院で働く看護師として、十分に能力を発揮できる知識・技能の習得と人格の涵養に努めてください。常に世界に目を向け、人間性の基礎となるリベラルアーツの基本を学び、そして、最先端の医学・看護学の習得を目指し、将来活躍するための基礎を十分に固めてもらいたいと思います。また、お互いを尊重しあえる「礼節」、卓越性を追求する「精強」、チームとしての力を最大限に発揮するための「団結」という精神を、しっかりと身につけてもらいたいと思います。

教職員の方々に於かれましては、本校に勤務する者としての誇りと自覚を持ち、自衛隊衛生や医療の分野で、日本の将来を担う人材を育成するという崇高な職務に精励していただきたいと思います。人を育てるということは、日本の将来を創ることにつながるという思いを、全職員が共有して頂きたいと思っております。

二つ目は防衛医科大学校であるからこそできる、他の大学に出来ないオリジナリティあふれる教育、研究、診療の推進です。防衛医科大学校は、その生い立ちや地位から、わが国の平和と独立を守る防衛省自衛隊における衛生機能の最先端において、これを推進する機能を有し、防衛医学、防衛看護学の領域においては他をリードして発展していくことが求められます。そのためには、これらの土台となる基礎及び臨床の医学・看護学においても高いレベルが求められることは言うまでもありません。それぞれの分野が融合し、互いに刺激し合いながら、防衛医科大学校としての高い独自性と先進性を発揮し、国内はもとより、国際的にも高い評価を受けられる様、また、これらを活かし優れた医官、看護官及び技

官を育てていく学舎としても、発展させていくことが肝要であると思います。

三つめは、令和4年12月16日に閣議決定された国家防衛戦略及び防衛力整備計画で示された「防衛医科大学校も含めた自衛隊衛生の総力を結集できる態勢の構築」の具現化です。

本校はその責務として、卒前卒後を通じた高度な医学・医療の教育を実施することにより、人材育成の点から自衛隊衛生の機能強化に貢献するとともに、防衛医学、防衛看護学をはじめとする最先端の医療技術や研究成果等を余すところなく自衛隊衛生の機能強化に活かして行くことが期待されています。また、防衛医学を中心としたシンクタンクとしての機能を発揮し、将来にわたってこの分野をリードしていく事は、アカデミアとしての重要な機能と考えます。これらを基に、自衛隊病院やその他の関係機関等との連携を強め、議論を深化させるとともに、本校に期待される機能を発揮し、自衛隊衛生の充実発展を強力に後押ししていかなければなりません。

最後に、ハラスメントの根絶です。

現在、防衛省全体として、また、本校としてもハラスメントの根絶に取り組んでいるところですが、ハラスメントは職員や学生相互の信頼を失わせ、組織の精強性を揺るがす、決してあってはならないものであり、引き続き、ハラスメントを起こさせないという強い決意とリーダーシップを持って、各種の対策に取り組んでいきたいと思えます。

これらの目標を達成するためには、防衛医科大学校病院の抜本的な運営改善とともに、各種の診療基盤、教育基盤、研究基盤をより一層強化していく事が喫緊の課題と考えています。そして、各部署が目的意識を持って密に連携し、広く学内全体を見渡し、効果的・合理的に改革・改善を進めていかなければなりません。

周知のとおり、わが国を取り巻く世界の安全保障環境は、歴史の転換点と言われるほど、厳しい状況にあります。新型コロナウイルス感染症への各種対応によ

って、自衛隊における衛生の評価は大きく上昇するとともに、防衛省において、衛生機能の強化は、極めて重要な課題として認識されています。

私は、歴代学校長が築かれてきたこれまでの基盤の上に立ち、その良き伝統を継承するとともに、本校にふさわしい新たな未来の創造を目指し、全力を傾注して参る所存です。

結びにあたり、本校のなお一層の充実発展のため、学生諸君には勉学、訓練、学友会活動等に一層励むことを、教職員の皆様には学校一丸となった協力と職務へ精励を改めてお願いし、学校長着任の辞と致します。

令和6年4月2日

防衛医科大学校長

福 島 功 二